平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 401 ※記入不要	提案機関名	湘南地区農政事務所

要望問題　栽培きのこの害虫防除対策技術の開発

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

県内の食用きのこ産業は、従来の原木シイタケ栽培主流から菌床による多品目栽培へと構造転換しつつある。しかし、菌床栽培はその歴史が浅いことから多くの問題点があり、対応策も未確立なものが多い。

その一つに害虫による被害発生が挙げられる。ダニ類は培養中の栽培瓶に侵入・増殖・移動を繰り返し、深刻な害菌被害を引き起こす。また、菌床や子実体を食害するキノコバエ、ムラサキアツバ等の害虫は、発生舎内の病害菌をも運搬して被害を拡大させる。さらに、商品に混入すれば商品価値を著しく損ない、きのこ全体のイメージダウンにつながりかねない、といった重要な問題である。

そこで、菌床栽培における害虫防除対策技術の開発を、希望するものである。

解決希望年限	①１年以内　**②２～３年以内**　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	**①研究所対応**　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） **⑨自然環境保全センター**

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター研究部
部　　署：	森林資源グループ

対応区分	①実施 ②実施中 **③継続検討** ④実施済 **⑤調査指導対応** ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名	（①、②、④の場合）

対応の内容等

菌床栽培における害虫防除対策については、「食の安全」の観点から農薬使用が制限されつつあることから、全国的に問題となっている。しかし、害虫発生問題は地域性が強く、国や種菌会社による統一的な対応は期待できない状況である。

普及部門ではきのこの害菌害虫問題についての調査事業が予定されていることから、普及部門と連携を図り、現地指導対応を行いたい。また、今後の問題推移によっては普及事業の中で課題設定する可能性を探りたい。

解決予定年限	①１年以内　**②２～３年以内**　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	